

読者の「読みたい」を引き出す 見出しは、どうしたらつけられるか？

通信を手にとったとき、一番に目に飛び込んでくるのは、見出しです。

見出しの良し悪しで、本文を読んでもらえるかどうかが決まるといっても過言ではありません。

そこで、今回は見出しの役割、つけ方のポイントについて考えてみることにします。

大切な通信も 学校から配られる 大量のプリントの一枚

ここでまず認識しておきたいのは、読者の意識です。学級通信や学校日より、保健だよりなどさまざまな通信を発行する際、読者は子どもたち、保護者、さらには地域の人も対象とする場合があります。その場合、書き手の熱い思いとは裏腹に忙しい保護者にとっては、学校から配布される大量のプリントの中の一枚として、きちんと読まずに処分されてしまう場合が、少なからずあるはずです。

厳しいことを言うようですが、発信する側の「こんなに一生懸命書いているのだから、子どもたちのことが書いてあるんだから読んでくれるはず」という思い込みを一度なくしてみる必要があります。

そうすると、皆さんが新聞や雑誌を読むときと同じ様に、記事を読むかどうか判断する上で、見出しの重要性を再認識することになるはずです。

理想教育財団のホームページに『分かりやすい文章を書く技術』を

執筆していただいたコミュニケーションの達人・藤沢晃治先生も、「読者は記事を斜め読みするものだと考えて欲しい」と言い、それでも伝えたいことを伝えるための見出しが必要と言っています。

見出しを上手につけるコツ

辞書を引くと、見出しとは、「新聞・雑誌などで記事の内容が一目でわかるようにつけた標題。ヘッドライン（大辞林）」とあります。

記事のボリュームに応じて、大見出し、副見出し、小見出し、さらに見出しの他に記事を要約した文章（リード）などによって記事は構成されています。

そのことを踏まえて、見出しをつける上で押さえておきたいポイントを整理してみましょう。

①記事の要点・内容をきちんと要約して伝える。

新聞や雑誌の中には、読者を獲得するために記事と内容が一致しないようないきすぎた表現の見出しをつける場合がありますが、通信づくりでは、まず、内容をきちんと伝えることが大事です。

たとえば、時・場所・量など固有

名詞や数字を使うと読者にすぐにイメージが伝わることもあります。

②小見出しを活用する。

実際に先生方が制作している通信の中で多いのが、ひとつの記事が1000字にも及ぶような長文の記事にもかかわらず、副見出しや小見出しがまったくなくというケースです。

子どもたちばかりか保護者にとっても読みづらいものです。副見出しや小見出しをつけることで、読みやすさが格段にアップします。

③文字量は抑える。

文字数は、8〜15字程度をひとつの目安に考えればよいでしょう。長すぎる見出しは焦点がぼやけてしまい、見出しの役割を果たさなくなりそうです。

④工夫をこらす。

具体的には、何本か見出しを立てるときにはすべてを体言止めにする。同じ言葉を使わない。倒置法や助詞などを効果的に使うなど、さまざまな工夫ができると思っています。

⑤リズムを大切にす。

言葉の響きや語呂も大切です。心地よいリズムの見出しは、読者を

●参考のために、第4回「育て！プリントコミュニケーション」コンクールの入賞作品から、読者をひきつける見出しの通信を選びました。

第170号 学校だより「よあけ」 2008年3月24日(月)

次年度へ向け飛躍

●有終の美を飾る!!
有終の美を飾る!!
有終の美を飾る!!

●夢の実現をめざす!!
夢の実現をめざす!!
夢の実現をめざす!!

●最後の学校だより
最後の学校だより
最後の学校だより

●お知らせ
お知らせ
お知らせ

●編集後記
編集後記
編集後記

●学校だより「よあけ」発行へのご支援とご協力。本当にありがとうございました。

●学校だより「よあけ」(那覇市立那覇中学校)
『次年度へ向け飛躍』を大きく目立たせ、『最後の学校だより 有終の美を飾る!!』を副見出しにしています。本文にも2本の小見出し『本日終了式』『新学期に向けて』を入れ、シンプルな構成の中でメッセージを強調しています。

2007(平成19年)6月6日(水) 6年1組 むらさき(紫草) 熊本市立帯山西小学校

4つの「あい」を大切に

相手、目、アイ、アイデアそして愛

グループでも、全体でも
発表を心掛けよう

6の1メンバー紹介

つぎ進め

●学級通信「むらさき」(熊本市立帯山西小学校)
「4つの「あい」を大切に」を大見出しに、『相手、目(アイ)、アイデア、そして愛』『グループでも、全体でも 発表を心掛けよう』を副見出しに、『サクスカード』を小見出しに、さらにリードを入れ、メッセージを明確にしています。

(1) 校報 おやけ 平成19年7月20日(金) 第7号

夏 伸びよう 伸ばそう 小宅っ子!

校報 おやけ

夏の風情

家族の思い出

あふれんぼな笑顔

プールで遊ぼう

●校報「おやけ」(たつの市立小宅小学校)
夏休みを前に、『夏 伸びよう 伸ばそう 小宅っ子!』とすばりメッセージを発信。リードで学校の姿勢を簡潔に述べ、小見出しを4本立てて、伝えたいことを具体的に展開しています。各ブロックの文章量も200字前後で読みやすい紙面となっています。

記事を読みたいという気分になさてくれます。

⑥見た目にも気を配る。

字体(明朝・ゴシック)もいろいろとありますが、工夫することで印象が大きく変わります。手書きの文字も味わい深いものです。

以上の六つのポイントのひとつの目安ですが、大切なのは、日頃感性

を磨くことです。特別なことをする必要はありません。毎日読む新聞や雑誌、電車の中刷り広告、また、ネットのニュースのヘッドラインなど。少し意識すれば、身の回りに参考資料があふれています。

ぜひ、日常の中でアンテナを張って、「読者をひきつける見出し」をつけるコツを身につけていただきたいと思います。